

虐待された経験を講演で語る

顔



しまだ
島田 妙子さん 42

小中学校の6年間、実父と継母から暴力を受けた経験を語っている。4年前に知人の集まりで始めた講演は今年8月、200回に達し、聴講者は延べ3万人を超えた。

男手一つで3人の子供を育てた父は、再婚した継母の妊娠で一変。一晚中立たされ、食事は抜かれた。湯船に顔を沈められることもあった。

「暴行されると『今日

の分は終わり』と安心する。何も

ない方が恐怖」という日々。中2の担任教諭があざに気づき、かくまってくれたとき「もう一度、人生をもらった」と思った。

「いつか優しい父に戻る」。

そう信じたが、父は離婚後、謝罪の言葉を残して自殺した。

2010年、暴力を共に耐えた次兄が死去。虐待経験をブログに記していたと知り、遺志を継いだ。昨年、兵庫県で虐待防止のアドバイザーも務める。

自身も育児で悩んだ。「つい手を上げたら、素直に謝ろう。暴力の連鎖に陥らないで」

「通報は親も子も救う。躊躇しないで」。経験に基づいた呼びかけに、共感が広がった。目指す

は「困っている親に手を差し伸べ、子を守る社会」。訴えが届くと信じる。

撮影・米山要

(社会部 黒川絵理)